

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	有限会社 ライフネットワーク	代表者	伊藤 淳一	法人・ 事業所 の特徴	「地域の中で生きていく」ことの大切さ、心がけ日々奮闘しております。認知症を予防しながら支援することも重要と考え学習療法を取り入れて、利用者、家族の方々が心豊かになり地域で生活していけるよう努力しております。
事業所名	かのん小規模多機能 センター	管理者	山崎 貴博		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	4人	人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	避難訓練、夏祭り、文化祭など地域の方々へ利用者と一緒に取り組むことで「強み」「弱み」を自己評価していき、運営推進会議で報告していく。	防災計画について、かのん小規模でリスクを考えて早めの対応をとっているがマニュアルは見ることがない。具体的な計画を知っていれば分かりやすい。運営推進会議の時にでも計画を見ることができるといい。	利用者が通っている時間は幸せに過ごしてほしいと思っていたが、かのん小規模では利用者が夜自宅で過ごしている時間などのことも考えなければならないのだと思った。 改善計画について、無理なことではなく少しずつステップアップしていく内容だと思う。	避難訓練やイベント等、事業所として「自分たちにできた事」「何ができて何ができなかったか」について運営推進会議で具体的な報告をしていく。地域の方々から事業所の感想や行事の実施結果の答えを、アンケートで知るようにする。外部の方々の意見を聞く機会を持つことで事業所の「つよみ」と「よわみ」を認識し、地域の方々から興味をもたれる事業所を目指す。
B. 事業所のしつらえ・環境	事業所の位置、避難経路、危険個所など、事業所周辺の状況を地域の方が見て役立てられる地域マップを作成する。運営推進会議でマップを見直ししていく。イベントポスターも地図で事業所の位置を分かりやすくする。	地域マップはできなかったが、かのんホームページで事業所の情報を知る事ができるQRコードをイベントの際には活用できた。	職員がレベルアップに向けてやっているのは分かるが、自分自身（家族代表）迎える時や文化祭の時など少ししか見えていない。見えていない部分が多いため達成されているか見えない。事業所で嫌な雰囲気は感じない。スタッフがすぐに玄関で迎え入れてくれるため、事業所に行きやすい気持ちになる。	地域の方に事業所の場所を認識してもらっているが、「どのようなところなのか?」「何をしているのか?」内部の情報をより知ってもらう必要がある。広報作成メンバー、構成を見直し登録者以外にも発信していく。地域で事業所の広報紙を置いてもらえるなど協力を得られるところはあるか、アプローチしていく。
C. 事業所と地域のかかわり	民生委員定例会議への出席を他事業所とも打ち合わせ、参加をすることにより保健福祉の相談を行いながら地域と情報共有を行う。	他事業所と民生委員定例会議への出席をすることができている。会議では各民生委員から介護や福祉制度などについての質問があり、情報共有ができた。	民生委員定例会議主席で自分たちも視野が広がるいい機会になった。イベント等で地域や他事業所とかかわりをつなげていきたい。	事業所と地域の方たちが共に学べる機会をつくっていく。近隣小学校等の生徒が放課後事業所に来たり事業所スタッフが学童保育へ出向くなど、認知症への関わ

				り方やサポートできる場所などについて語り合う機会をつくり、開かれた事業所として交流の幅を広げる。
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者が地域で馴染んできたものを踏まえ、これからの新しい思い出を残す取り組みを行う。近隣の散歩を利用者で行いながら、地域の状況を観察していく。民生委員会議、地域包括支援センターとの情報の交換、収集を行う。	体験学習で来所した生徒の崎山中学校文化祭へ、かのん利用者が招待され行くことができた。震災後新しくできた田老の町へも出かけられている。民生委員会議への出席、地域包括支援センターとの情報交換の機会は少ないが行っている。	中学校文化祭に本人（利用者）が行ってきたことを喜んでいた。家族は商業施設や道の駅などへ本人を連れて行くことはあるが事業所で中学校へ連れて行ってもらったことをずっと憶えていて、そのことを思い出し自発的に話すようになった。昔ばかりじゃなく新しい思い出が増えていくのはいいですね。	地域の住人で心配のある方や地域の困り事などについて事業所でできる支援はないか話し合いを充実させる必要がある。運営推進会議以外でも民生委員と定期的な情報交換を行っていく。事業所近くにとらわれず他の地区の民生委員へも運営推進会議参加を相談してみるなど、かかわりを広げ情報交換を活発にしていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議で地域個人の情報は保護しながらケースについて状態を相談でき、事業所は地域に対して対応や支援の方法を伝えていく。地域の心配事への情報や意見交換を今後も行っていき、人に限らず地域設備などについても話し合いをしていく。	民生委員が把握している地域の方や心配事が運営推進会議で話題に上がることがあるが、具体的な支援の方法を出すことができていない。災害時の避難場所での設備などの情報を運営推進会議で共有することはできている。	家族の中の話だからどこかに相談するということまでいかない。それぞれの家庭で介護について本当に困る前に相談できればいいが。家の中のことを第三者に伝えるのは難しい。ほっとほ一むで社会福祉協議会スタッフが勉強会を開催している。それ以外の事業所でも機会があればまた別の話しが聞けると思う。	運営推進会議に参加しているメンバーとの意見交換が行うことができ、それぞれの情報を伝えあうことで地域の状況を共有。情報交換の関係性としては良好であるが地域の困り事などを打開するため、テーマについて話し合ったり共に学べる機会をもつ必要がある。運営推進会議で多種多様な専門職（薬剤師、訪問看護師、警察官など）の出席を求め、学習機会の計画をしていく。
F. 事業所の防災・災害対策	火災、風水害、地震など災害対策に係る対応マニュアルの随時更新。近隣の方々などへ災害への啓発を行っていきながら、住民と事業所が顔の見える互助の関係を築いていく。職員が利用者や地域に向け、防災の勉強会を開催していく。	マニュアルの更新、AED 取り扱いの講習会を開催し地域の方たちも参加している。災害時には避難情報が発令されたら早期に行動に移し、避難所で地域の方たちへ援助も行っている。	かのんが早めの避難行動へ移っているのは知っているが、具体的なマニュアルは見たことがない。防災計画を知っていれば分かりやすい。かのんが避難しているから自分たちも同じ方向に避難するなど、手本にできると思う。	かのんでの災害時マニュアルを運営推進会議の際に開示し、自由に閲覧してもらおう。災害時に必要な物（備蓄や様々な形態の食料）にどんなものがあるかについても紹介をしていく。防犯のための避難場所としても開かれた事業所の機能を果たす。